

平成 30 年 6 月 11 日現在

機関番号：16301

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2017

課題番号：26370045

研究課題名(和文) 遺跡調査に基づく北京地方における遼金元代仏教の歴史文化的研究

研究課題名(英文) Research of Buddhist History and Culture in Beijing Area in Liao, Jin, Yuan Dynasty Based on the Study of Historical Relics

研究代表者

シン 東風(XING, DONGFENG)

愛媛大学・法文学部・教授

研究者番号：50335882

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：遼金元時代、仏教は盛んに発展し、北京は中国北方の仏教の中心地であるため、現在でも仏教の遺跡が数多く残っている。本研究は、北京地方における遼金元時代の仏教を対象として、関係する人物・事件・史実などを文献的に考察するとともに、さらに現在の北京地方に遺る同時代の仏教遺跡を調査することによって、遼金元仏教の歴史文化的実体を解明するものである。研究の重点は、1) 元代の海雲印簡の遺跡および関連する史実。2) 遼金元時代の北京地方における禅宗や浄土信仰の伝播。3) 元刊本『臨濟録』の内容、および金元時代北京地方の臨濟宗。

研究成果の概要(英文)：Buddhism was prevailing during the time of Liao, Jin, Yuan Dynasty. As Beijing was the center of Buddhism in the northern part of China, nowadays there are still many Buddhist historical relics remaining in Beijing. This essay will focus on the Buddhism of Liao, Jin, and Yuan Dynasty in Beijing area, including examining relevant figures, events, and historical facts based on documents record, and trying to reveal the historical and cultural features of the Buddhism of Liao, Jin, and Yuan Dynasty through the investigations of the remnants of Buddhist relics in Beijing area. The research will emphasize on the following points: first is the relics and related historical facts about Haiyun Yinjian(海雲印簡) of Yuan Dynasty; second is the dissemination of Zen Buddhism and Pure Land Belief of Liao, Jin, and Yuan Dynasty in Beijing area; and the third is about the content of the Record of Linji(Yuan Dynasty edition) and the Linji school of Liao, Jin, and Yuan Dynasty in Beijing area.

研究分野：インド哲学仏教学

キーワード：遺跡 北京 遼金元 仏教 禅宗 海雲印簡 『臨濟録』 元刊本

1. 研究開始当初の背景

遼金元は仏教の大発展を遂げた時代で、当時の北京は北中国における仏教の中心地であり、仏教が特に盛んになった。遼金元仏教は中国仏教史の重要な部分であるが、従来、文献史料が少ないために、数多くの疑問や不明な点が残されている。1980年代以来、同時代の史料の整理・編集や考古発見の成果が相次いで現れ、北京地方における遼金元仏教の実態をさらに解明することも可能となる。

2. 研究の目的

北京地方における遼金元仏教の実体を解明する。具体的に、(1)北京地方における遼金元仏教の寺院・仏僧・遺物・碑文・文献などの調査研究、(2)以上の調査を踏まえ、この分野の新しい発見、既有的誤解への訂正、(3)北京以外の地域にあった、本課題に関わる問題も検討。

3. 研究の方法

文献的に考察するとともに、さらに現在の北京地方に遺る仏教遺跡を調査することによって、遼金元仏教の歴史文化的実体を解明する。北京では、今日でも遼金元仏教の遺跡が数多く遺っており、遺跡調査によって、現地の遼金元仏教の実態を具体的に解明することができる。

4. 研究成果

(1)「海雲碑」の研究。「海雲碑」は、金元時代の高僧の海雲印簡(1202-1257)に関する第一次史料で、近代発掘以来、精密な校正本が見当たらない。本研究は、碑文原物と既存の転写本と照合したうえ、信用度の高い、且つ読みやすい校正本を作成した。また、「海雲碑」は重要な史料であるが、これまでに注釈・解説がなかった。本研究は、関係史料と最新の研究成果を参照しながら、この碑文に見られた人物・場所・歴史事件などを詳細に考察した上で、全文の解説を作成した。海雲印簡の経歴および関連する人物や歴史事件などが更に明らかになった。

海雲周辺の人物、特に彼の弟子たちについては、北京・河北・山西などで発見された碑文によって、一部は明らかにした。例えば、海雲の師である中観沼公と中和璋公との二人の関係、帰雲志宣・沖虚昉公と海雲との関係、海雲の弟子である庸庵堅公・華嚴智明の経歴など、こういった人物の背景を把握したことによって、金末元初北方臨済宗の様子がさらに明らかになった。

海雲関係の遺跡は、北京・河北・山西・遼寧などの各地に散在しており、その一部は既に明らかになったが、本研究は新たな調査を行い、特に旧北京双塔寺の遺物、北京昌平桃林寺、河北易県興国寺に注目して、それぞれの事実を解明した。1950年代、双塔寺で発見された舍利子は、現在首都博物館に保存されているという、公開されていないが、海雲、或いは海雲弟子智朗のもの可能性が高い。

北京昌平の桃林寺は後の法林寺であり、海雲の舍利塔が立てられたとの記載(大同の

「慧明碑」)があるが、実際は桃林寺ではなく、秦城の龍泉寺である。龍泉寺の海雲塔の塔額の拓本は現存している。興国寺は現存していない、そもそもは易県の大寺の一つで、海雲・智朗と関係深い場所である。

(2)遼金元時代北京地方の浄土信仰。北京の聖安寺と広通寺の旧跡、また大鐘寺や鉄壁銀山と紅螺寺は、いずれも北京地方における浄土信仰の歴史と関係深い場所で、現存の碑文によれば、遼の妙行・金の仏覚瓊・晦堂洪俊・円通広善、元の普度と雲山禪師、および清の際醒禪師は、それぞれ上記の寺院のどこかで浄土信仰の伝播と実践を行った事実が分かる。本研究によって、上記寺院の歴史と人物、特に金元時代北京地方の雲門宗僧と浄土信仰との関係が明らかになった。

(3)新資料の発見 元刊本『臨済録』。金元時代の北京は北方臨済宗の中心で、大慶寿寺や竹林寺なども臨済宗の拠点となった。しかし、当時の活躍した臨済宗の人物については、一部の碑文資料の他に、伝灯史の記載が少ないため、よく分からなかった。実は、日本伝本の『臨済録』によれば、元代の雪堂普仁に重版された『臨済録』には、普秀・従倫・郭天錫よる三本の「別序」と王博文よる「臨済祖師道行碑」の碑文があつて、特に、そこに臨済宗の伝承系譜を含めているために、金元時代臨済宗の重要な史料となる。しかし、雪堂本『臨済録』は現在まで遺っているか否や確定されず、したがって、「別序」と碑文との出典も明確には確認できなかった。本研究は、最初、日本伝本に保存された雪堂本の内容を参考しながら、金元時代の碑文資料なども利用した上、その臨済宗の伝承系譜に見えた多くの人物の身分、特に雪堂普仁の資料や経歴、および彼の臨済宗を振興させるための業績などを明らかにした。後、さらに雪堂本を調べ、遂に中国国家図書館で発見した。この発見は、臨済宗と『臨済録』との研究においては大きな意義があり、それによって、雪堂本の現存という事実のみならず、さらに、郭天錫の新しい逸文、日本伝本の真の底本、「別序」と王博文よる碑文との原型などの確認が始めてできたのである。雪堂本『臨済録』は、雪堂普仁よる臨済宗振興事業の成果であるほかに、金元時代北方臨済宗の重要な史料でもあり、その中に、他の文献に見られない臨済宗の史料があつて、独自の価値を有している。

元刊本「臨済録」をめぐる遺跡調査によって、様々な史実を確認できた。雪堂普仁は当時非常に活躍した臨済宗僧であり、彼の資料は碑文記載に見られる。元刊本『臨済録』の刊行後、早いうちに日本まで伝わり、後の日本刊本に影響を与えた。東洋文庫蔵本の『臨済録』は元刊本ではなく、南宋刊本『古尊宿語録』の一部である。遼金元時代の北京まで進出した禅僧は、北京以外の北方地区とも関係深い。

新資料の発見として、また、元代曹洞宗の

林泉從倫の碑文もある。

(4) 遼金元時代北京地方の禅宗実態の解明。遼金元時代、北京地方で活躍した禅宗の僧侶が多かった。だが、当初の禅僧たちに関する資料は、高僧伝や伝灯録などの文献に全く見えない、或いは簡単すぎる記載しか見えない場合が多く、かえって、各地に散在している仏教遺跡、特に碑文資料には、遼金元時代の北京地方で活躍した禅僧の資料が時々見られ、それは当時の北京地方の禅宗の実態を反映する貴重な資料である。このような資料によって、下記の実態を判明した。遼金元時代、北京地方に進出・活躍した禅僧は人数が多く、禅宗五家の中、臨濟宗・曹洞宗・雲門宗・法眼宗の四家までも及んでいる。臨濟宗は特に人数が多い。禅宗各派の間、協力して共同事業を行ったことがあり、例えば万松行秀よる海雲へ、林泉從倫よる雪堂普仁へ、大都三禅会よる少林寺への支持は、いずれも協力事業である。高僧伝や伝灯録に見られない禅宗人物およびその事績・遺跡として、曹洞宗には、青州希弁の遺跡(「白瀑院正公法師塔記」逸文、仰山棲隱寺の「重修青州弁祖塔略」碑首)、万松行秀の遺跡、彼の弟子從檀・從和・徳方、孫弟子本連・月泉同新、林泉從倫の逸文(「重修牛心山慧禪院記」)などが確認された。臨濟宗には、元刊本『臨濟録』序文を踏まえて、石刻史料に散見された遼金元時代多くの僧侶の臨濟宗における所属関係と伝承関係が分かった。その中、天目斉と鄭州宝との両系統は特に注目する値があり、雪堂普仁に関する新発見が特に多い。

遺跡調査によって、当時の北京地方における禅宗各派の拠点を確認できた。曹洞宗の拠点は仰山棲隱寺(遺跡ある)・大報恩寺(現在の磚塔寺)・大万寿寺(廃止)・大覚寺(現存) 臨濟宗は大慶寿寺(廃止、遺物ある)・竹林寺(市内と郊外との二カ所とも廃止)・潭柘寺(現存) 雲門宗は大聖安寺(一部の遺跡ある)・大延聖寺(現在の鉄壁銀山、遺跡ある)・紅螺寺(再建)がある。

(5) 北京以外の、本課題と関わる問題について、上金貝古墓の真相の考察。福建省寧徳市の上金貝古墓は、1989年発見以来、墓主の滄海珠禪師は海雲印簡の第三代弟子である、また、明代建文帝であるという説が特に騒いでいる。本研究は、現地調査と海雲関係の史料を踏まえて、墓主は元末明初の禅僧で、海雲や建文帝とは無関係であるという事実を明らかにした。湖北省襄陽市承恩寺地区における仏教遺跡の調査。現地発見の三点の仏教遺跡、即ち明代襄憲王墓と千峰庵、曹洞宗僧の墓碑、承恩寺の碑文などをめぐって、明の襄憲王と明の英宗と現地の曹洞宗との関係を考察したうえ、明清時代襄陽地方の曹洞宗は、そもそも北京まで進出した青州希弁や後の雪庭福裕の系統の子孫だと分かった。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計 26 件)

邢東風、元刊本『臨濟録』について、『東アジア仏教学術論集』、査読なし、第6号、2018、pp.107-170

邢東風、北京地区浄土信仰史跡小考 以徹悟大師住持過的寺院為す中心、『衆力莊嚴一仏円満 人間浄土与弥陀浄土』下冊(香港中文大学人間仏教研究中心出版) 査読なし、2017、pp.253-276

邢東風、紅螺寺僧史小考、『北京社会科学』、査読あり、2017年第10期、pp.18-26

邢東風、『江西仏教研究』序、『東方禅文化』、査読なし、第9集、2017、pp.166-169

邢東風、日本伝本『臨濟録』の史料的价值、『「臨濟録」研究の現在』(禅文化研究所出版) 査読なし、2017、pp.127-160

邢東風、陶淵明与道家思想及桃源夢郷、『生態文明与陶淵明研究』(復旦大学出版社) 査読なし、2017、pp.12-19

邢東風、山南海北話黄檗 關於黄檗希運的遺跡・伝説及影響、『中国佛学』、査読なし、第40号、2017、pp.1-32

邢東風、襄陽承恩寺地区仏教遺跡之考察(下)、『湖北文理学院学报』、査読なし、2016年第12期(総39号) 2016、pp.15-22

邢東風、中日仏教交流与中国近代仏教的社会事業、『法雨中国 普潤世界 人間仏教在東亜与東南亜的展開』(香港中文大学人間仏教研究中心出版)、査読なし、2016、pp.620-637

邢東風、襄陽承恩寺地区仏教遺跡之考察(上)、『湖北文理学院学报』、査読なし、2016年第10期(総37号) pp.15-20

邢東風、古今薬師信仰漫談、『薬師如来与公益慈善』(宗教文化出版社) 査読なし、2016、pp.274-288

邢東風、四国遍路与中日仏教文化交流、『鉄塔重光 首届中華唐密重興国際學術研討会論文集』(同朋舎新社) 査読なし、2016、pp.207-218

邢東風、「啓法寺碑銘」の史料价值、『宗風』(香港『宗風』雜誌社出版) 査読なし、2015年第2期、2016、pp.20-31

邢東風、中国古華嚴塔的調查研究、『仏教文化研究』(江蘇人民出版社) 査読なし、第三集、2016、ページ数不明

邢東風、從「金沙塔院記」看龍泉華嚴塔、『中国仏学』、査読なし、第39号、2016、pp.1-15

邢東風、鈴木大拙訪華与北京教旧影、『仏光学报』、査読あり、新2巻第1期、2016、pp.291-322

邢東風、近代杭州仏教旧影：從鈴木大拙的杭州仏教訪問説起、『杭州仏教研究』(宗教文化出版社) 査読なし、2014年卷、2015、pp.23-37

邢東風、「啓法寺碑銘」与道安、『第四届三禅會議論文集』上冊(宗教文化出版社) 査読なし、2015、pp.285-296

邢東風、懷念浄慧長老・發展仏教学術、『生活禅研究3』(大象出版社)、査読なし、

2015、pp.16-25

邢東風、南宋仏教文化の繁栄と中日仏教交流 從日本保存の宋版藏經説起、『靈隱寺と南宋仏教—第三屆靈隱文化研討會論文集』(宗教文化出版社) 査読なし、2015、ページ数不明

②邢東風、上金貝古墓·海雲印簡·明代建文帝、『中国仏学』、査読なし、第37号、2015、pp.27-45

③邢東風、玉泉承皓禪師考、『仏教文化研究』(江蘇人民出版社) 第1集、2015、pp.276-306

④邢東風、周敦頤の「太極図説」と仏教、『東亜朱子学の新視野』(商務印書館出版) 査読なし、2015、pp.230-241

⑤邢東風、日本の国宝級薬師像及薬師信仰、『薬師如来と当代社会』(宗教文化出版社) 査読なし、2015、pp.439-456

⑥邢東風、仏法と王権 以道安・慧遠・神会為例、『第一屆襄陽道安論壇論文集』(宗教文化出版社) 査読なし、2014、pp.177-193

⑦邢東風、中国華嚴塔概観、『華嚴宗国際學術研討會論文集 2014』下冊(台湾華嚴蓮社) 査読なし、2014、pp.447-470

[学会発表](計 21 件)

邢東風、日本人眼中的「人間仏教」 以仏光山為中心、人間仏教在東亜与東南亜の伝布国際學術研討會、香港・中文大学、2018

邢東風、学者乎、神人乎 從神話伝説看歴史上の李長者像、第六回華嚴宗国際學術研討會、台湾・華嚴蓮社、2017

邢東風、元刊本『臨濟録』について、日中国際仏教学術大会、東京・東洋大学、2017

邢東風、從元刊本『臨濟録』看宋元時期的杭州禅林、第一屆中国禅宗祖庭文化論壇、杭州・径山禅寺、2017

邢東風、鈴木大拙の蘇州之旅、『景德伝灯録』与仏教中国化、蘇州・重玄寺、2017

邢東風、北京紅螺寺と昔日の寺院施業、人間仏教在東亜及東南亜の實踐国際學術研討會、香港・中文大学、2016

邢東風、寄禅和尚与水野梅暁、第三屆天童寺禅文化交流大会、寧波・天童寺、2016

邢東風、襄陽承恩寺地区仏教遺跡之考察、第三屆襄陽道安文化論壇、襄陽市、2016

邢東風、山南海北話黄檗、水西仏教文化論壇、中国安徽省經県、2016

邢東風、日本伝本『臨濟録』の史料的价值、『臨濟録』国際学会、京都・花園大学、2016

邢東風、北京地区浄土信仰史跡小考、人間浄土与弥陀浄土国際學術研討會、香港・中文大学、2016

邢東風、中日仏教交流与中国近代仏教の社会事業、人間仏教在東亜与東南亜の開展国際學術研討會、香港・中文大学、2015

邢東風、「啓法寺碑銘」の史料価値、文献世界中的仏教国際検討會、ソウル・東国大学校、2015

邢東風、「海雲碑」読解、第五屆河北禅

宗文化論壇、河北省石家荘市、2015

邢東風、密雲円悟の「弁天説」、第二屆天童文化論壇、寧波・天童寺、2015

邢東風、日本の国宝級薬師如来像及薬師信仰、中国福山合盧寺薬師仏と当代社会慈善論壇、山東省煙台市、2014

邢東風、南宋仏教文化の繁栄と中日仏教交流、靈隱文化論壇、杭州・靈隱寺、2014

邢東風、啓法寺碑銘と道安、第四屆河北禅宗文化論壇、河北省冀州市、2014

邢東風、滄海珠禪師·海雲印簡·明代建文帝、第5屆黄梅禅宗文化論壇、湖北省黄梅県、2014

邢東風、作為道安及襄陽仏教史料的一篇名碑、第2回襄陽道安文化論壇、湖北省襄陽市、2014

⑧邢東風、中国華嚴塔概観、第3回華嚴宗国際學術研討會、台北・華嚴蓮社、2014

[図書](計 0 件)

[産業財産権]

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

[その他]

ホームページ等

<http://www.xixik.com/content/8f88c81323a418ca>

<http://www.bjshkx.net/article/2017/1164/1002-3054-0-10-18.html>

http://www.readmeok.com/2016-5/12_48088.html

<http://rinrou.net/rinzai1150/symposium/rinzai0514.html>

<http://www.fgu.edu.tw/~cbs/pdf>

6. 研究組織

(1)研究代表者:シン 東風(XING DONGFENG)
愛媛大学・法文学部・教授

研究者番号:50335882

(2)研究分担者: なし

(3)連携研究者: なし

(4)研究協力者:黄夏年(HUANG XIANIAN)
中国社会科学院世界宗教研究所・研究員
包世軒(BAO SHIXUAN)
北京古建築研究所・研究員